

## <エッセイ>プログレは終わったのか

著者	入木田 浩幸
雑誌名	日文研
巻	57
ページ	55-57
発行年	2016-09-30
URL	<a href="http://doi.org/10.15055/00006499">http://doi.org/10.15055/00006499</a>

## <エッセイ>プログレは終わったのか

著者	入木田 浩幸
雑誌名	日文研
巻	57
ページ	55-57
発行年	2016-09-30
URL	<a href="http://doi.org/10.15055/00006499">http://doi.org/10.15055/00006499</a>

## プログレは終わったのか

入木田 浩 幸

最近、ロックミュージシャンの訃報が相次いでおり、ロックファンとしては心が痛いところ  
です。

表題にあります「プログレ」とは、「プログレッシヴ・ロック」のことで、一九六〇年代後半にイギリスから発生したロック音楽のジャンルのひとつです。ビートルズのラストアルバム「アビー・ロード」を全英チャート第一位から引きずり下ろしたのが、キング・クリムゾン（以下「クリムゾン」）の一九六九年のデビューアルバム「クリムゾン・キングの宮殿」だったという話は聞いたことがあるかと思います。そのクリムゾン、ピンク・フロイド（以下「フロイド」）、イエス、エマーソン・レイク&パーマー（以下「EL&P」）、ジェネシスの五つのバンドは、プログレ五大バンドと言われています。

プログレとはどのような音楽か「何故に」「どこか」プログレッシヴ（前衛的・進歩的）なのか、一人のプログレファンの偏執狂的な観点から、プログレの音楽要素などについてお話し  
たいと思います。一つ目は、演奏者の超絶技巧です。EL&Pのキース・エマーソンはハモンドオルガンを弾きながら下敷きになってみたり、反対側から弾いてみたり、挙句の果てにはナイフを鍵盤に突き刺して感電？したり、ピアノの弦部分をハープのようにかき鳴らしたりする  
凄腕でした。イエスのリック・ウェイクマンはキーボード群を自分の周囲を取り囲むように配

置して、それらを自由自在に弾いています。プログレバンドは演奏者のその超絶技巧ゆえに、曲に変拍子や転調が多いのが特徴で、ライヴでもアルバムと同じように曲を再現しています。二つ目は、クラシックやジャズの音楽要素を取り入れていることです。特に、E L & Pは、クラシックの要素を強く取り入れています。「未開人」という曲では、バルトークのピアノ曲「アレグロ・バルバロ」を、「ナイフ・エッジ」という曲では、ヤナーチェクや、バッハを取り入れていますし、ムソルグスキの「展覧会の絵」は、組曲全体をロックにアレンジしています。極め付きは、「タルカス」というアルバムで、プログレファンで作曲家の吉松隆氏が、逆に表題曲をクラシックのオーケストラ用に編曲しています。クリムゾンにおいては、ジャズの要素であるインプロヴィゼーションが演奏の核にもなっていますし、フロイドのキーボード奏者のリック・ライトは「狂気」のアルバム中の曲のコード進行はマイルス・デイビスから影響を受けたと語っています。クラシックやジャズの音楽要素を単にモチーフとして使うだけでなく、ロックにまで昇華している点が凄いと思います。三つ目は、アルバム自体がコンセプトアルバムになっていることです。ムーディー・ブルースの「デイズ・オブ・フューチャー・パスト」のアルバムが先駆けです。コンセプトアルバムは、曲が長尺になる傾向があり、当時はレコードの片面が、丸々一曲になっていることは当たり前でした。ジェネシスの最高傑作「幻惑のロードウェイ」は、レコード2枚組で、九〇分強の間、物語が展開される作品で、全体を聴くだけで疲れてしまいます。四つ目は、当時の最先端の楽器や技術を駆使した音創りがされていることです。モーグシンセサイザーやメロトロンなどでもメロトロンはプログレには必須の楽器です。メロトロンは、ストリングスなどのサンプル音源が録音された磁気テープを使用した鍵盤楽器で、通常のストリングスなどの生音に比べて、摩訶不思議で心地良い？音がし

ます。また、楽器類だけでなく、インタビュ音源や、様々な音がサンプリングされて使われています。ここで忘れてはならないのが、富田勲氏です。富田氏は、ドナウ川でのパフォーマンスといい、かなりプログレです。五つ目は、その影響力です。今まで申し上げてきたプログレの音楽要素は、色々な国のロックバンドに影響を与えています。それぞれの国に合うような形でその音楽要素が取り込まれて、个性的で特色のあるプログレバンドが各国に存在しています。また、前衛的な芸術活動にも影響を与えていて、例を挙げると世界的な舞踏カンパニーである山海塾は初期の頃にタンジェリン・ドリームの曲を使用したパフォーマンスを行っていました。

今までお話してきましたが、一九七〇年代中頃から衰退していきます。解散・再結成を繰り返したり、ポップ路線に方向転換したり、メンバーチェンジをしたりして、悲しいことに現在ではバンドは形骸化しています。レディオヘッドや、アイスランドのシガー・ロスなど、新しいバンドが現れている昨今、それらのバンドの曲を聴きながら、その中にプログレの要素を見つけては、「まだまだ、プログレは終わってないぞ!」と、一人ほくそ笑んだりしています。

最後に、四月の日本公演の直前に亡くなられたキース・エマーソン氏のご冥福をお祈りいたします。

(国際日本文化研究センター管理部総務課長)